2026年12月　すぎなみ天体観望会

ふたご座流星群から太陽系の故郷を探る

すぎはち公園は西から南、東にかけて見晴らしがよく冬の澄んだ空のもとでは美しい夜空を楽しむことができます。

観望会　2026年12月12日(土)・13日(日)

観望会は「月」の観察から始めます。
月の欠けている方がほんのり明るい「地球照」が見られ、望遠鏡を使わなくても確認できます。望遠鏡で観る月面の欠け際の様子は、月面上空を飛行しているようにも感じられます。
「土星」は、昨年より環の傾きが大きくなり美しい姿が戻ってきました。



東の空に見える「すばる(プレヤデス星団)」は青い星の集まりで、ギリシア神話ではアトラスとプトレマイオスの間に生まれた7人の姉妹を指しています。
望遠鏡の順番を待つ間も流れ星が見えるかもしれませんので、願いごとを準備して空を続けて見ているようにしてくださいね！

天文解説員――　鈴木泰夫／IMAGINUS職員

開催時間――
①17:45～18:30　②18:45～19:30
※受付は開始時刻の10分前からです

※曇天・雨天の場合は、プロジェクターを使った天体解説を行います。
あわせて天体望遠鏡の操作体験を行います。

対　　象――
どなたでも
※杉並区在住・在学・在勤の方とそのご家族　※小学生以下は保護者同伴

トークイベント　2026年12月13日(日)

流れ星を見たことはありますか？
12月中旬に出現するふたご座流星群は、1年の中でも特に流星出現数の多い「三大流星群」の一つです。流星の仕組みとその観察方法を予習して、ふたご座流星群のピークを迎えましょう。
流星の正体は、宇宙空間から飛び込んでくる塵(ちり)の粒。流星群の起源は太陽系の中を旅する小さな天体たち。ふたご座流星群の母天体である小惑星フェートンに、日本の探査機が向かおうとしています。流星は、地球、そして私たちが生まれてきた太陽系の故郷の秘密を運んできます。



講　　師――　内藤誠一郎
[自然科学研究機構 国立天文台所属]
東京大学大学院理学系研究科天文学専攻にて修士(理学)。大学院では電波天文学を学び、分子雲進化と星形成過程を研究。現在は国立天文台広報普及員として、アルマプロジェクトの研究成果の発信や各種広報普及活動に携わる。



開催時間――
①14:00～15:00　②16:00～17:00
※受付は開始時刻の10分前からです

対　　象――
小学生以上
※杉並区在住・在学・在勤の方とそのご家族

会　　場――
コミュニティふらっと高円寺南
(愛称：ふらっとすぎはち)［杉並区高円寺南2-40-24 ］
［受付］第2・3集会室 ※観望会はすぎはち公園(同施設併設)にて行います。
https://furatto-sugihachi.jp/

アクセス――
JR中央線「高円寺駅」(南口) または
東京メトロ丸ノ内線「新高円寺駅」から徒歩8分

定　　員――
観望会 … 各回50名程度 ／ トークイベント … 各回50名程度

参加費――
無料 事前申込制／定員を超えた場合は抽選

応募受付期間――
2026年11月15日(日)～12月1日(火)23:59

参加確定のお知らせ――
申込締切後、1週間程度を目安に、お申込みいただいた方全員へメールにて結果をお知らせします。

トークイベント・観望会へのお申込みはこちら！

杉並区公式ホームページ(イベント情報)からもお申込みできます。

お問い合わせ――
杉並区科学教育事業担当 株式会社コングレ
Mail―suginami-science@imaginus-suginami.jp
Tel―03-6383-0296［9:30～17:30／定休 火曜日］

主催――
杉並区立社会教育センター